

編集後記

「平和を考える小中学生作文集第三十五集」をお届けします。本年度はこの作文集に、小学生から三十五点、中学生から五十四点、計八十九点の作品が寄せられました。小中学生ならではの視点で、それぞれが考える平和について丁寧に綴られた作品ばかりです。

授業や本、そして、ニュース等をきっかけに、戦争について考え、調べ、話を聞き、また、現地を訪れるなどして、戦争がもたらすもの、平和の尊さ、核兵器の脅威など、各々が感じる戦争や平和に対する考えが伝わってきます。「平和とは何か」「私達が生きている現代は平和と言えるのか」「平和な世界を築くためにできることは何か」と、読み手の私達にも問いかけています。

私達の住む沼津市でも、戦争はありました。沼津のまちは一夜にして変わり果て、多くの市民が犠牲になったといえます。

そして、昭和六十二年、沼津市は「核兵器廃絶平和都市」を宣言しました。「世界の恒久平和を築くことは人類共通の願いである」「美しい地球、そして平和な生活を子々孫々まで守りぬく」。私達は、これからもその努力を続けていく必要があります。

世界では、未だ多くの戦争が日々起こっており、この瞬間も多くの命や生活が失われています。その悲惨過ぎる現実に、目を背けたくなくなることもあります。しかし、日々の生活を送っていると、時として自分自身とは別の世界で起きている出来事だと感じてしまうことが誰しもあるのではないのでしょうか。

そんな中、被爆者の立場から核兵器の廃絶を訴えてきた「日本原水爆被害者団体協議会」がノーベル平和賞を受賞しました。約七十年にわたり、核兵器のない世界を実現するための努力、核兵器が二度と使用されてはならないとの証言を強く訴え続けてきた活動が評価されての受賞となりました。この受賞を機に、核の脅威が全世界から無くなることを強く望むものです。

未来に同じ失敗を繰り返さないためにも、これからの時代を担う小中学生が、平和について自分なりに考え、話し合うことや知り得たことを発信していくことは、大事なことです。この作文集を通して、沼津市の小中学生の皆さんが、世界の人々と本当の平和とは何か、共によく話し合い、未来へと希望をつないでくれることを願っています。

この作文集が、平和を願う私達の思いを一つにし、平和な世界への大きな一歩となりますように。最後に、この作文集を読んでくださった皆様方に心から感謝申し上げます。